

今週は…

# 作家に聞く

## 鳴海風さん



■プロフィール ■1953年生まれ、新潟県出身。東北大学大学院機械工学専攻修士。自動車部品メーカー「デンソー」に勤めた後、作家デビュー。「和算」を題材にした小説を数多く発表しています。

### 留学の夢かなえた少女

主人公のそらは、明治時代初めに岩倉使節団とともにアメリカに行った5人の女子留学生の一人、吉益亮子がモデルだそうですね。

鳴海さん 吉益亮子は留学後、津田梅子のように女性のための学校を創立しましたが、間もなくコレラで死んでしま

「この空のすっとすっと向こう」は、幕末を舞台に外国で学ぶことを夢見る少女の物語です。日本初の女子留学生の一人をモデルに、激動の時代をいきいきと生きる姿が描かれています。作者の鳴海風さんに作品ができるまでの道のりを聞きました。

【篠口純子】

いました。5人がどうして留学するようになったのか調べてみると、吉益亮子だけが育った環境がはっきりしません。ほかの4人は、父や兄、親類が外国へ行っていたため、外国に興味を持ったのでしよう。吉益亮子にも、外国に行きたいと思うようになったきっかけがあったはず。物語としてそれを書こうと考えました。

「この空のすっとすっと向こう」(おとないちあき・絵ノボラ社1600円)



幕末、江戸で暮らす町医者の娘そらは、英語を学ぶ侍の手、大六と出会いました。大六から英語を教わり、外国へ行きたいと思うようになります。外国で学ぶ夢を実現させた少女の姿を描いた物語です。

た。研究書や専門書を読むと、よく知られている人物の周囲に気になる人が出てきます。それらの中にすごい人を見出すと、多くの人に知ってもらいたくなります。

——社員として働きながら作家になったそうですね。

鳴海さん 江戸川乱歩や「シエームス・ボンド」に興味があり、中学生のころからSFやミステリーを書いていました。作家になりたいと思ったのは大学生の時でした。工学部の学生だったので理系の仕事につくと思っていたのですが、数学の単位を落として留年し、進路の選択をまらげなような気がしました。

「シエームス・ボンド」の国を見るためにイギリスに行き、小説で読んだ場所が実際に存在することに衝撃を受けました。自動車部品メーカーで技術者として働きながら、小説を書く勉強もし、新人賞に応募しました。文系、理系に



# 本のページ